



TITLE:

# 日本一のクラゲ天国田辺湾(68) ヒメツリガネクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(68) ヒメツリガネクラゲ. 紀伊民報 2012

ISSUE DATE:

2012-06-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180203>

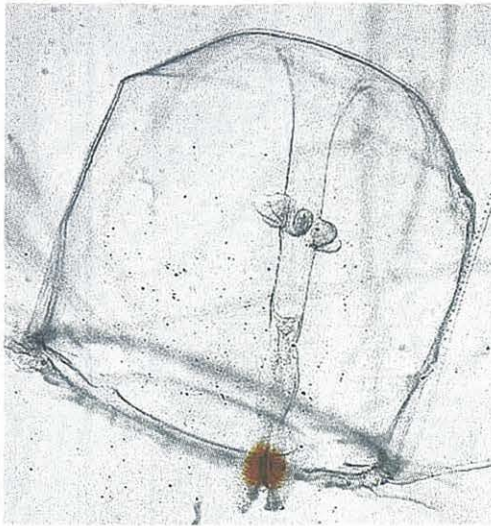
RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2012年(平成24年)6月28日 木曜日 (12)

# ヒメツリガネクラゲ



生涯を外洋で過ごすヒメツリガネクラゲ  
(河村真理子博士撮影)

久保田 信

68



ヒメツリガネクラゲは、北日本にしか生息しない大型のツリガネクラゲに類似した南方系のヒドロクラゲである。ヒメは姫の意味で、かわいいう小型を指す和名としてよく使われる。

傘の縁には、最多で64本の触手がぐるりと生えている。全てがすらっとした触手で、その根元に膨らみが全く見られない。この形態はヒメツリガネクラゲが所属している硬クラゲ類の特徴である。傘の縁には触手の他に8個のこん棒状の感覚器があって、他のクラゲ類とはちょっと変わった構造をしている。

傘のてっぺんには突起があることが多く、この個体はまだ少し若いのではない。寒天質もまだ極めて薄い。傘の中央に垂れ下がる胃腔から8本の放射管が伸びて栄養を体中に巡らせている。その胃腔の上部を支える寒天質の柄が伸びているが、口はそれでも傘から外に突き出さない。

画像では6個しか見えないが、胃腔と寒天質の柄の接続部付近に、将来はバナナ状に伸びる8個の生殖巣ができる。胃腔直上の放射管上に生殖巣が発達するのはこのクラゲの一つの特徴で、近縁種のツリガネクラゲとの区別点である。

和名の通りの釣り鐘状をした透明な傘の高さは、6ミ以下と小さい。傘はとても柔らかく、ゼラチン質が成体になっても薄いので、プランクトンネットで採取してもしわくちゃになっっていることが多い。

(京都大学准教授)